

グリホサートアンモニウム塩液剤処理による雑かん木除去方法

1.はじめに

近年、バイオエタノール需要の増加にともない、トウモロコシなどの穀物価格が高騰しています。平成19年9月における配合飼料の農家購入価格は、乳用牛飼育用で前年比122.3%、肉用牛肥育用で前年比121.0%と高止まりの状況です。また輸入粗飼料価格も上昇傾向にあり、畜産経営に大きな影響を及ぼしています。

このような状況の中、自給飼料生産や放牧の推進による、コストの低減、飼料自給率の向上が求められており、鳥根県においても耕作放棄地や遊休農地などを活用した鳥根型放牧を推進しています。しかしながら、放牧地を継続利用すると、棘があるなど嗜好性の劣る雑かん木が繁殖し、牧養力が低下することがあります。そのときに雑かん木を除去する薬剤が必要ですが、平成15年の農薬取締法の改正以来、放牧場で利用できる有効薬剤は事実上なくなっていました。

そこで、放牧場でのグリホサートアンモニウム塩液剤処理による雑かん木除去方法を農業技術センター技術普及部、隠岐農林局普及部とともに検討し、農薬取締法に基づく農薬登録が認められましたので、以下その概要について紹介します。

2.試験方法および結果

(1) 試験方法

供試薬剤名 :グリホサートアンモニウム塩液剤
(商品名 ラウンドアップハイロード)

有効成分および含有率 :

グリホサートアンモニウム塩 41.0%

処理方法 :9月下旬の雑かん木生育盛期に雑かん木を刈り払い、各切り株の切り口にグリホサートアンモニウム塩液剤の原液を切り口の直径に応じて所定量を塗布。



(2) 試験結果

処理約1ヶ月後および翌年の5月中～下旬(8ヶ月後)に各株の萌芽再生率を調査した結果は表1のとおりでした。

アキグミ、**アキニレ**、**サンショウ**は処理1ヶ月後および8ヶ月後において、処理区の全ての株で萌芽再生が認められませんでした。**タラノキ**は処理1ヶ月後では、処理区で無処理区とほぼ同等の萌芽再生が認められましたが、8ヶ月後では全ての株において再生が認められませんでした。**ヌルデ**、**ツゲ**は8ヶ月後において無処理区と比較して処理区の再生率は低くなりました。

いずれの樹種においてもグリホサートアンモニウム液剤処理により再生が抑制されることが明らかとなりました。

また、雑かん木の周囲に**イタリアンライグラス**をは種し、発芽率および生育状況を調査しましたが、薬剤処理による影響は認められませんでした。

表1 グリホサートアンモニウム塩液剤処理後の雑かん木再生率

樹種	試験地	試験区	再生率(%)	
			1ヶ月後	8ヶ月後
アキグミ	隠岐郡	処理	0.0	0.0
		無処理	85.0	94.7
アキニレ	隠岐郡	処理	0.0	0.0
		無処理	85.0	100.0
サンショウ	出雲市	処理	0.0	0.0
		無処理	70.6	94.1
タラノキ	出雲市	処理	40.0	0.0
		無処理	50.0	90.0
ヌルデ	出雲市	処理	0.0	5.0
		無処理	0.0	95.0
ツゲ	鹿島町	処理	15.0	6.3
		無処理	60.0	85.7

< タラシ >



無処理区



処理区

< アキグミ >



無処理区



処理区

図 グリホサートアンモニウム塩液剤の効果 (処理 8 ヶ月後の状況)

3.使用方法

- (1) 雑かん木をなるべく株元近くの適当な高さで伐採します。
- (2) 伐採当日のうちに切り口全面に表 2 の所定量のラウンドアップハイロードを直接、塗布します。
塗布には、油さしのような液が飛散しにくいものを使用すると作業しやすいです。
- (3) 塗布後 6 時間以内の降雨により、効果が低減するため、天候に留意して実施します。
- (4) 薬剤処理後は、数ヶ月程度、休牧させてから放牧を再開します。
- (5) ノイバラは再生力が強いいため、しっかりと枝を刈り込み株元を露出させ、塗布し忘れた切り口がないよう注意します。

表 2 農薬登録内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用
					切り口直径	塗布量			
牧草	牧野・草地	雑かん木	雑かん木生育期	原液	5cm以下	2ml	2回以内	切株塗布処理	2回以内
					5～10cm	3～6ml			
					10cm以上	10ml			

このような雑かん木の繁茂や有害植物の中毒を防ぐためには、早期の対策が重要です。放牧地を造成する際にはできるだけ除去し、放牧中に見つけた場合は、成長しないうち、広がらないうちに除去することが大切です。